

■ 編集委員

齋藤 一之 (委員長)

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| 板橋 明 | 糸山 進次 | 菰田 二一 | 鈴木 洋通 | 竹内 勤 | 土田 哲也 |
| 中塚 貴志 | 西村 重敬 | 禾 秦壽 | 廣瀬 隆則 | 間嶋 満 | 渡辺 修一 |

(五十音順)

■ 編集後記

本年1月に学務委員会の中に、出欠席問題を考える ad hoc 委員会ができました。学生の講義に対するアンケートを取ると、必ず講義の出欠席をとることのデメリットが学生から出されていましたし、教員側からも同様の意見が出されていました。そこで、この問題を検討する委員会が設置されたわけです。これまで4回委員会が開催されましたが、「出欠席をとる」ことを実は多くの局面から捉えていかなければことが解ってきました。その切り口の一つに履修主義と修得主義という考え方があります。履修主義というのは、出席すれば単位を取得できるというもので、必ずしもその成果が試験などでは問われないというものです。本学でいえば5年生で行われているBSLの実習点がこれに相当します。これに対して、修得主義では学習した内容が一定の水準に達しているかどうかは試験で問われますが、その結果がよければ必ずしも出欠席は問われないというものです。この例としては、通常行われる講義一定試験が挙げられます。現在、本学において出欠席問題で議論されている背景の一つには、修得主義を認めるか否かということ、すなわち試験の結果さえよければ出欠は問わないという点を認めるか否かということがあります。もう一つ、出欠席問題を考える切り口として、出欠席を確認することが学生の生活習慣を維持している事に繋がっているという事があります。すなわち、「朝起きることが出来ない」、「どうしても遅刻してしまう」という学生がいるわけで、このような学生の生活習慣を是正する手段として出欠席を確認することには意義があるのではないかということです。これまでに述べた出欠席問題に関する二つの切り口は、お互いに相容れないもののように思われますが、これらをいかにうまく融合させていくかが、今回の委員会に問われていることの一つのようです。かくの如く、出欠席問題を考える際には、単に出欠席をとることの善し悪しを議論するのではなく、その背景にある多くの切り口を考え、対応していくことが要求されているのだということを、実はこの委員会に参加して初めて知った次第です。

もう一つ、出欠席問題を考えるうえで大きな問題が浮き彫りにされてきました。それは何かと申しますと、今回の委員会では欠席が多いことの問題が議論の中心に置かれているのですが、近年本学では、出席率が高いにもかかわらず、成績が良くない学生が存在し、このような学生に対する対応もまた大きな課題であることも一言付け加えておきます。

(間嶋 満)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第31巻 第2号 通巻113号 (季刊)

編集責任者 齋藤 一之

平成16年3月31日 発行

発行所 埼玉医科大学医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2125(直通) FAX 049(276)2127 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

制作 株式会社アテネデザイン

東京都港区三田1-11-19 小宮ビル2階 電話 03(3456)5741(代) <http://www.atene.co.jp>